

研修テーマ「住宅型老人ホーム利用者の暮らしの自由について」

今回の研修の目的としては、施設の機能と住宅的機能を併せ持つ住宅型老人ホームがどのように両方の欠点を補って、利用者の生活を安全かつ自由なものに調整するのかを調査することだ。研修に行く前の私は老人ホームについて全くの無知であったため、住宅型老人ホームのイメージは一部屋にベッドが複数あり三人くらいで暮らしている病院の様なイメージを抱いていた。入居者は家族や親族が見切れなくなった認知症の高齢者ばかりで、一日中奇声や揉め事、徘徊が散見されるというまるで精神病棟の様な場所であり、またテレビの報道やインターネットの情報から介護事業は介護者の労働賃金の実態や労働環境の過酷さなどマイナスなことばかりを見てしまい、ネガティブなイメージが勝手に染みついた状態で研修に向かった。今回の研修は、住宅型有料老人ホーム「エスプリ鹿児島あいら」の全面協力の下、ボランティア活動や施設見学、また宿泊も利用者が実際に使用しているものと同じ部屋を使用して行われた。その他に特別養護老人ホーム「マモリエあいら」や在宅ケアセンター「さざんか園」の施設の説明や施設見学も行われた。このレポートは見学した三つの施設から感じたことを基に住宅型老人ホーム利用者の暮らしの自由についてまとめる。

一つ目にエスプリは平成30年3月に開設した要介護1～5の方が入居できるとても新しい民間経営の老人ホームだ。夫婦で利用する部屋以外は全て一人部屋になっており、一人ひとりのプライバシーをととても尊重している。また老人ホームの利用者だけを受け入れているデイサービスも併設しており日中はデイサービスで入浴やサービスを受けることができる。新しい施設であるためデイサービスや部屋、浴室など施設全体がとても綺麗で清潔感がありホテルの様な印象を受けた。次に、マモリエは平成21年3月に開設された要介護3以上の方が入所でき、入居とショートステイの二種類の利用者がユニットと呼ばれるテーマごとの生活空間の中で暮らしている老人ホームだ。寝室は個室だがユニットはとてもアットホームで一つの家の様になっており、各ユニットの入り口には靴箱が設置され玄関をイメージした設計になっている。また施設の廊下は屋外の様にするため、植物を置いたり小さなカフェを設置している。施設の掲げるテーマを徹底しており、利用者にとって本当に大切なことは何かを追及しているという印象を受けた。最後にさざんか園は平成7年4月に開設された小規模多機能施設だ。さざんか園は老人ホームではないため基本は送迎付きのデイサービスを中心とした施設だがショートステイも行っており、規模が小さいことを活かした柔軟で利用者一人ひとりにしっかりと目の行き届いたサービスを提供している。

三つの施設を見学した率直な感想としては、利用する高齢者が何ができて何が出来ないのかをしっかりと見極めること、そして利用する本人にとって何が一番なのかをしっかりと話し合うことが大切だと思った。施設を利用するということは、既に一定以上の支援や介護を受けなくては生きていくことができない。その中で利用者がどこに自由を欲しているのか、よく話し合わなければそれは逆に利用者の自由を奪ってしまうことになりかねない。例えば、エスプリではデイサービスが併設されているためコミュニティは比較的自由に作

ることができる。けれども起床、就寝時間や食事の時間は決まっており献立も基本的には施設が考えたものを食べなければならない。また、自由に施設の外を出歩くことは出来ない。そういった面での自由は限られている。それに対しマモリエでは起床、就寝時間や食事の時間は決まっていない。更に自ら意思と目的を伝えれば施設の外に出かけることができる。けれども、デイサービスもなく生活もユニットごとに分かれているため自らが意思を持たなければほとんどコミュニティもなくただただ毎日を過ごすだけになってしまう。自由度は高いが、果たしてそこに自由が必要なのかは利用者の意思が重要になっている。自由度の高さという意味ではマモリエの方が高いが、暮らしやすさで言ったら私はエスプリの方が暮らしやすいと思った。それでもどちらの施設も一人ひとりの意見にしっかりと耳を傾け、極力利用者が暮らし易い様に努力されていたので、自分に合った施設を選ぶことで比較的自由に暮らすことができると感じた。

今回の研修テーマは老人ホームなのでテーマからは少しずれてしまうが、二つの施設を比べたうえで三つ目の施設、さざんか園はとても重要な施設であると考えている。極論を言ってしまうと、すべての人が老人ホームに入居せず、在宅で生活すればホームの自由について考えることはない。また、既に超高齢社会を迎えている日本は地域包括システムを構築し、施設に入所している高齢者を極力在宅で支援することを目標としている。したがって、さざんか園のような小規模多機能施設は本来一番目指すべき形なのだと私は考えている。けれども、今はまだ小規模多機能施設はそこまで普及しているとは言えない。その理由として核家族化による老々介護の問題や自分の子どもたちが介護に時間を割くことができない現状があげられる。多少の費用は掛かってしまうが、どうしても老人ホームに預けてしまった方が楽だという現状が存在している。現代の若者たちそして各企業はもっとこの問題について真剣に取り組まなくてはならない。なぜならばこれだけ女性の社会進出による少子化が騒がれている中で、未だに改善の兆しが見えていない。今回のボランティアの中で小規模多機能施設を上手に利用すれば在宅ケアで支援できそうな利用者や何人も見てきたからだ。自分たちの未来に起こり得る問題については現状をヒントに今考えなくてはならない。少し前に育児休暇の理解と普及が話題となり少しずつだが理解が進みつつあり、現在これだけ働き方改革がなんだと騒ぎ残業を減らしているならば、次は介護の為に時間休を普及して欲しい。例えば、介護の為に少し早く退勤できる制度などがあれば在宅とショートステイを上手く併用することができ、小規模多機能施設の需要が高まっていくと思う。けれどもこの意識を高めるには、もっと自分の両親を家族が面倒をみるという意識を普及させること、また認知症による徘徊や暴力の対策も徹底など問題が山積みだ。今回のテーマとは少しずれてしまったが、三つの施設をすべて見学して考えた目指すべき自由の形についてまとめた。

今回のレポートのテーマに沿ったまとめとしては、住宅型老人ホームを利用する方々の暮らしは想像していたよりも自由な暮らしだった。また、施設にはそれぞれルールはもちろんのこと色や掲げている目標が違う為、自分に合った施設を選ぶことでより自由に生活す

ることができると思った。これから自分の祖父母や両親、また自分がもし施設に入所することになった時、今回の研修で感じたことや考えたことなどを思い出し、何が一番ベストな選択なのかを考えることができたなら今回の研修が全く無駄ではなかったということだと私は思う。